

第2次燕市総合計画の中間評価・見直し方針について

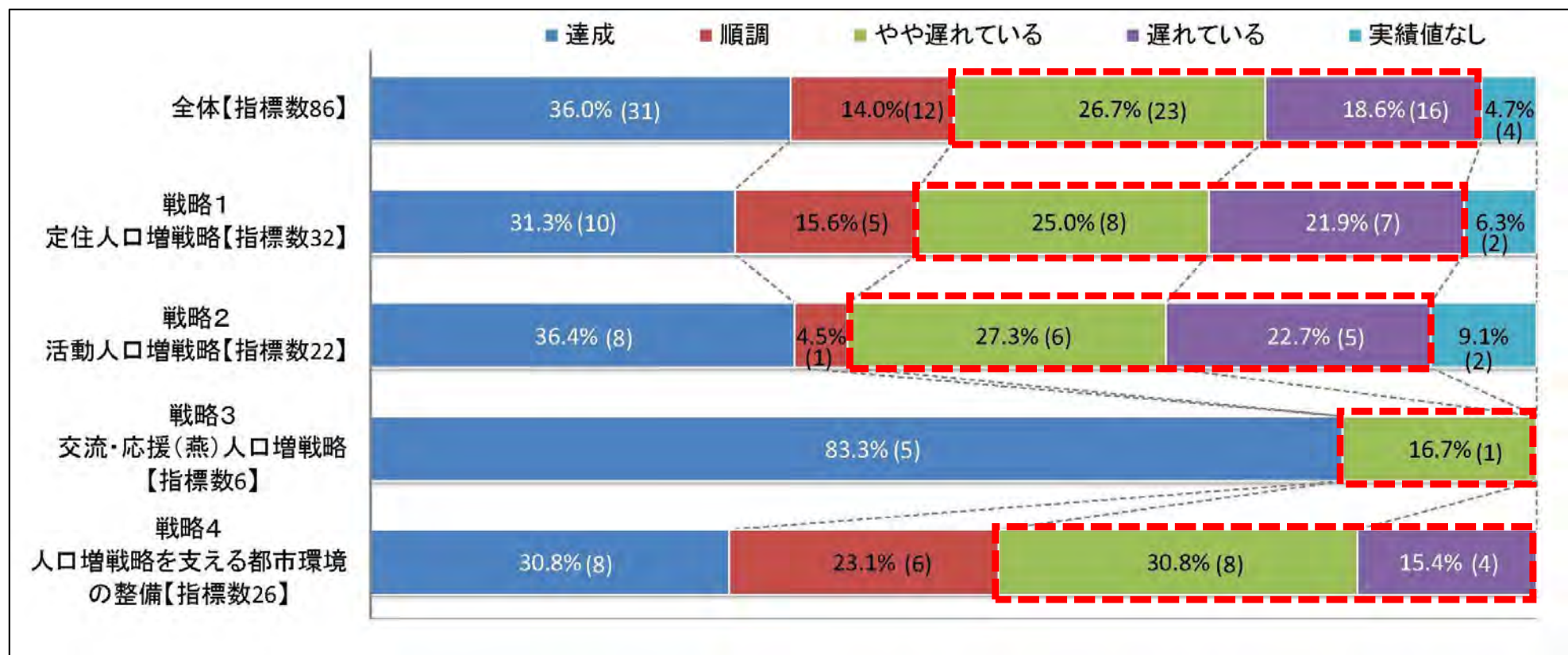
資料4

平成30年度実績と令和元年度実績見込みについて、中間目標値に対する達成状況を評価し、必要に応じて総合計画を見直します。

① 中間評価の結果に基づき現行の施策等を調整

・中間評価において成果指標が基準値よりも悪化しているなど、現状のままでは最終目標値を達成することが困難であると予想される項目について、達成に向けた取組内容を追記または修正します。

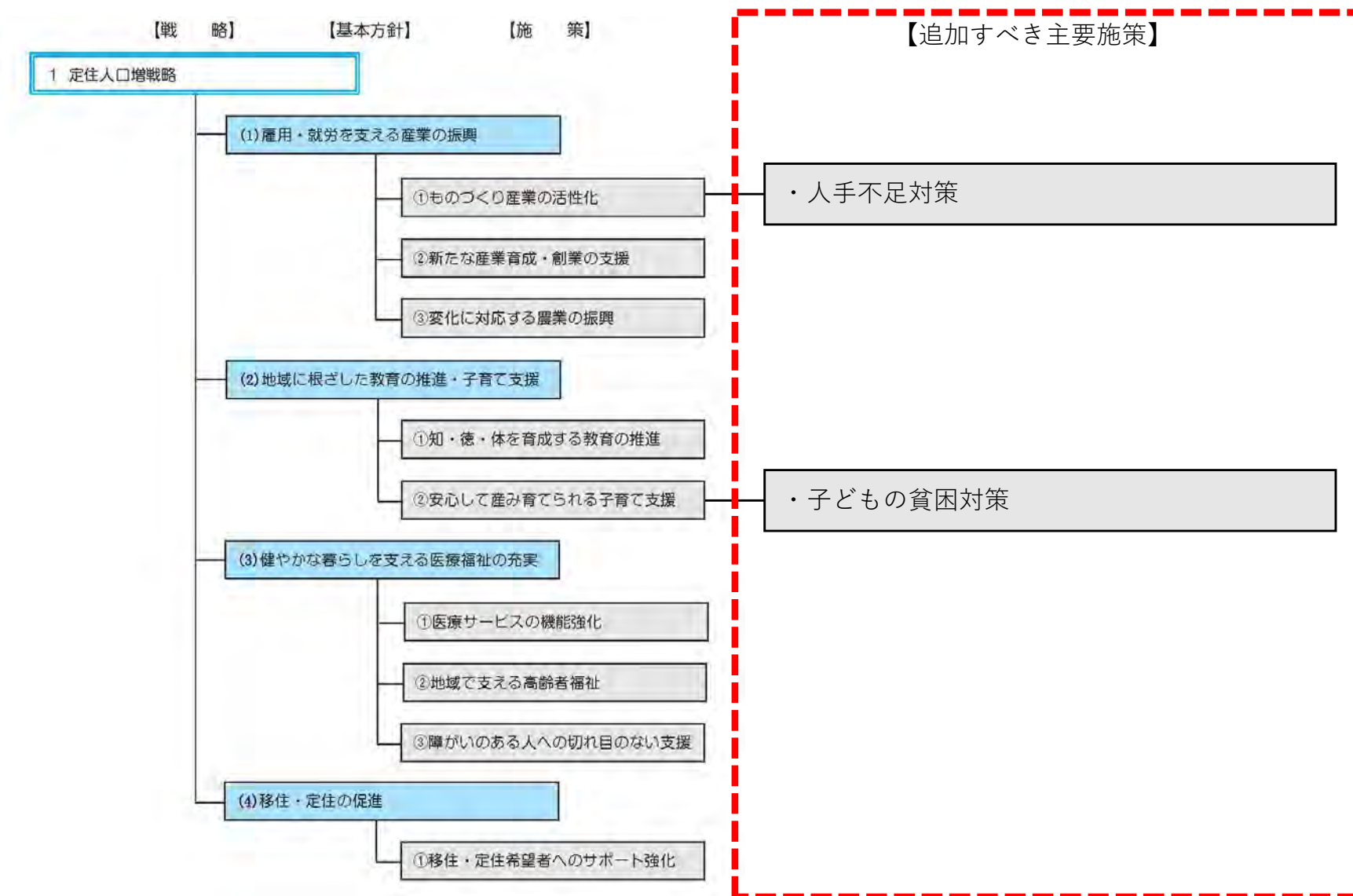
【参考】平成30年度の達成状況



② 社会経済情勢の変化に伴う新たな課題に対応するための施策等を検討

・策定から4年が経過し、社会情勢の変化等により、今後取り組む必要のある主要施策を追記します。

【追記の例】現時点で追加を想定している主要施策



③指標項目の変更を検討

- ・数値の追跡ができなくなったなどの場合は、指標項目を変更します。

【変更の例】第2次燕市総合計画成果指標〔平成30年度の達成状況〕

①指標項目	②計画策定時 基準値	③28年度調査実績値	④29年度調査実績値	⑤30年度調査実績値	⑥中間目標値 (R1・H31年)	⑦最終目標値 (R4・H34年)	⑧ 評価 (4段階)	⑨要因分析・説明	⑩ 担当 課
胃がん男性死亡者数 (直近5カ年の対10万人当たり平均)	80.6人 (H21～H25年の平均)	81.0人 (H23～H27年の平均)	78.4人 (H24～H28年の平均)	— (H25～H29年の平均)	74.2人	69.3人	—	この指標は、厚生労働省公表の数値を用いているが、H28年調査分から入手・利用に制限があり、実績値が記載できない。中間見直しにおいて、捕捉可能な同様の指標への変更を検討する。	健康づくり課
大腸がん女性死亡者数 (直近5カ年の対10万人当たり平均)	45.4人 (H21～H25年の平均)	39.5人 (H23～H27年の平均)	45.1人 (H24～H28年の平均)	— (H25～H29年の平均)	41.8人	39.0人	—	この指標は、厚生労働省公表の数値を用いているが、H28年調査分から入手・利用に制限があり、実績値が記載できない。中間見直しにおいて、捕捉可能な同様の指標への変更を検討する。	健康づくり課

④目標値の修正

- ・総合計画策定後に個別計画の改定があり、目標値に乖離がある場合は、目標値を修正します。

【修正の例】

第2次燕市総合計画
(計画期間：平成28年度～令和4年度)



第3次燕市健康増進計画
(計画期間：平成30年度～令和4年度)

■施策の達成目標			
指標項目	基準値 (年度)	中間目標値 (H31年度)	目標値 (H34年度)
各種がん検診受診率 (地域保健・健康増進事業報告)	胃がん検診 18.9%	胃がん検診 36.7%	胃がん検診 50%以上
	大腸がん検診 33.7%	大腸がん検診 43.0%	大腸がん検診 50%以上
	肺がん検診 44.8%	肺がん検診 47.8%	肺がん検診 50%以上
	子宮がん検診 60.1%	子宮がん検診 61.0%	子宮がん検診 62%以上
	乳がん検診 35.8% (H26年度)	乳がん検診 43.9%	乳がん検診 50%以上
胃がん男性死亡者数 (直近5カ年の対10万人当たり平均)	80.6人 (H21～H25年の平均)	74.2人	69.3人
大腸がん女性死亡者数 (直近5カ年の対10万人当たり平均)	45.4人 (H21～H25年の平均)	41.8人	39.0人
特定保健指導率	36.2% (H26年度)	50%	60%

36 デートキーパー：「門前」という意味で、地域の中で自給を求めている人に当たった様、サインに気づき、自給を促す、自給を促す。自給を促す。自給を促す。

第3章

(3) 生活習慣病

① 健康診断・がん検診

<目標値・期待値>

※「現在値H28年度」で下線がついている数値は第2次計画の目標を達成できた項目 単位:%

項 目		現在値 H28年度	H34 年度 目標値・期待値	備考
特定健診受診率		52.8	60.0 以上	特定健康診査・ 保健指導実施状況より (確定値)
特定保健指導率		45.1	60.0 以上	
メタボリックシンドローム 予備群の割合	男	15.9	男 10.0 以下	
	女	5.4	女 5.0 以下	
メタボリックシンドローム 該当者の割合	男	30.1	男 25.0 以下	H26 年度以前の地域保 健・健康増進事業報告 における算出方法 (第 2 次燕市総合計画と同 様)
	女	12.2	女 10.0 以下	
がん検診 受診率	胃がん検診	19.7	50.0 以上	
	肺がん検診	46.6	50.0 以上	
	大腸がん検診	38.4	50.0 以上	
	子宮がん検診	72.1	80.0 以上	
	乳がん検診	42.5	50.0 以上	

見直し箇所まとめ(例)

【②】新たな課題およびそれに対して取り組むべき主要施策を追記

戦略1 定住人口増戦略

基本方針1 雇用・就労を支える産業の振興

施策1 ものづくり産業の活性化

見直しの概要を記載

【見直しの概要】テキストテキストテキストテキストテキストテキスト
テキストテキストテキストテキストテキストテキスト

■現況と課題

近年、市内の中小企業を中心としたものづくりの現場では、技術者や職人の高齢化による継承や廃業から、技術継承が困難となっている状況が多く見受けられます。この背景には、経済のグローバル化に伴うサプライチェーン[※]の変遷や、従来にはないスピードでの市場の変化などから、これまでの地場企業の経営モデルでは立ち行かなくなってきたことが大きく影響しています。

このことは、後継者対策や技術継承の問題だけに留まらず、これまで燕産地の強みであった多種多様な金属加工におけるサプライチェーンの崩壊につながりかねない深刻な課題でもあります。

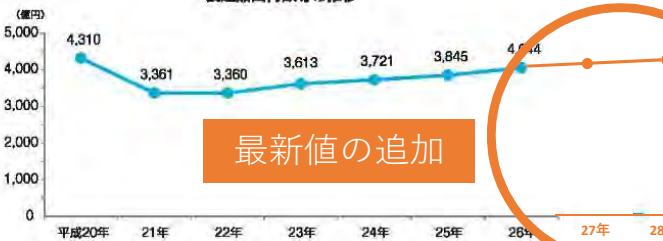
そのため、本市ではこれまで新たな市場獲得に向けて、市内企業とさまざまな展示会への共同出展や国内外の見本市へ出展する際の補助などの販路開拓を支援するとともに、新しい産業分野への進出を目的としたセミナー・研究会の開催や新たな製品・技術の開発を促進するための開発補助などを行ってきました。

しかし、今後、人口減少による国内市場の縮小や労働力不足など、ものづくり産業を取り巻く状況はさらに厳しさを増すことが予想される中で、産地産業を維持し、地域の雇用創出を図っていくためには、従来の施策に加え、さらに産業基盤の高度化、高付加価値化が重要となっています。

また、広域連携によるスケールメリットを活かし、対外的な情報発信を強化するとともに、地場で生み出される卓越した製品群を地域の卸売企業と連携して国内外の新たな市場へ積極的にアピールしていくことなどが必要となっています。

テキストテキストテキストテキストテキストテキストテキストテキスト
テキストテキストテキストテキストテキストテキストテキストテキストテキスト
テキストテキストテキストテキストテキストテキストテキスト

製造品出荷額等の推移



■施策の方向性

- ものづくり産業の活性化を図るため、新たな市場に向けた販路開拓を支援します。
- 産業の高付加価値化を目指して新産業を育成し、競争力強化を図ります。
- 後継者・技術者の育成を行い、経営力や競争力向上のための取り組みを支援します。

○ テキストテキストテキストテキストテキストテキスト

■主要施策

1. 産地産業ブランド化の推進

「ものづくりのまち・燕」としてさらなるブランド力の向上を図るため、本市の金属洋食器や厨房用品等を2020年東京オリンピック・パラリンピックの選手村などで採用してもらう取り組みや、金属酒器による乾杯の普及などを通じて、燕製品の高い技術力を発信します。また、海外への新たな販路の拡大に取り組みます。

2. 新産業育成支援

本市が保有する金属加工技術をベースにさらなる高度化を図りながら、より付加価値の高い産業分野への参入を促すとともに、それによる新たな企業群の創出に向け、

3.

「」を基に、

4. 産地技術基盤の伝承

本市が培ってきた金属加工における代表的な加工技術の中で、現在失われる可能性の高い技術を次代へ確実につなげていくため、その技術保有者の確保・育成支援を行うことで、産地として保有している技術基盤の維持・強化を図ります。

5. 広域連携による産業情報発信

燕三条地場産業振興センターをプラットフォーム[※]に三条市と連携し、見本市等を中心に本市のものづくりを国内外に向けて積極的にPRすることで、産地産業における販路拡大

6. テキストテキストテキストテキストテキストテキストテキストテキスト
テキストテキストテキストテキストテキストテキスト

■施策の達成目標

指標項目	基準値 (年)	中間目標値 (H31年)	目標値 (H34年)
製造品出荷額等	3,844億6千万円 (H25年)	4,310億円	4,375億円
金属製品製造品出荷額	826億6千万円 (H25年)	910億円	924億円
従業員一人当たり製造業付加価値額	818万円 (H25年)	950万円	964万円

※プラットフォーム：関係者の相互作用を促す

【③】指標項目の変更

【④】目標値の修正

その他、現状と大きく異なる記載は修正します